平成2年度厚生省心身障害研究
「新生児期・乳児期の生活管理のあり方に関する総合的研究」

退院前および外来フォローにおけるパルスオキシメーター（PO）を用いた酸素化の評価の有用性

（分担研究：慢性肺障害の管理と予防に関する研究）

研究協力者　八　代　公　夫
共同研究者　小　口　弘　毅

要 約：慢性肺障害の長期ケアーに際しては呼吸管理あるいは酸素投与の必要性がなくなった後も、定期的に酸素化の状態を評価する必要がある。酸素化の評価は安静睡眠時のみならず、哺乳中、退院後の発熱などの一般的な小児疾患、あるいは毛細気管支炎などを併発した際の酸素化の状態を知ることは重要である。そこで退院目前あるいは退院後の超未熟児の小児科外来受診時（発熱などを主訴とした）にPOによって動脈血酸素飽和度（SpO_2）を記録し非侵襲的に酸素化の評価を行った。哺乳時に稀にSpO_2記録は低下することがあったが、一般的には哺乳中も酸素化の状態は非常に安定していた。外来受診時のSpO_2モニターによって微妙な低酸素血症をスクリーニングしたが、まだ症状数が少ないもののSpO_2値は90％を越え安定していた。今後さらに症例数を増やし慢性期の超未熟児出生の乳児の様々な状態における酸素化の評価が必要と思われる。

見出し語：PO、SpO_2

研究方法：対象は慢性肺障害を併発した超未熟児12例において退院直前および退院後の様々な状況においてPOを用いてSpO_2記録をのべ46回行った。超未熟児の平均在胎週数は27週、平均出生体重は924gであり、記録は日令60日以降に行った。

結 果：退院直前の慢性肺障害児のチューブ・フィーディング中、あるいは経口哺乳中にSpO_2値をのべ16回記録した。また入浴後にものべ12回SpO_2値の記録を行った。ミルク摂取時の16回の記録の内、SpO_2値が87％以下に低下した記録は2回のみでありほとんどの症例では哺乳類中の酸素化は安定していた。感冒あるいは喘鳴出現時に受診した超未熟児であった乳児10例（のべ18回）において外来受診時に約10分間SpO_2値のモニターを行った。10例中1例が受診後1週間以内に入院となかったが、モニター中は全例が安定したSpO_2モニター値が得られた。

考 案：慢性肺障害児の退院に際して酸素化を様々な条件下でPOを用いてSpO_2モニターを行なうことは、在宅の児のケアーに問題がないか否かを推定するうえでも必要である。また外来での児の“WELL-BEING”をSpO_2モニターから評価することはきわめて有用である。

北里大学病院小児科
Department of Pediatrics, School of Medicine

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:慢性肺障害の長期ケアーに際しては呼吸管理あるいは酸素投与の必要性がなくなった後も、定期的に酸素化の状態を評価する必要がある。酸素化の評価は安静睡眠時のみならず、哺乳中、退院後の発熱などの一般的な小児疾患、あるいは毛細気管支炎などを併発した際の酸素化の状態を知ることは重要である。そこで退院目前あるいは退院後の超未熟児の小児科外来受診時(発熱などを主訴とした)に PO によって動脈血酸素飽和度(Sp02)を記録し非侵襲的に酸素化の評価を行った。哺乳時に稀に Sp02 記録は低下することがあったが、一般的には哺乳中も酸素化の状態は非常に安定していた。外来受診時の Sp02 モニターによって微妙な低酸素血症をスクリーニングしたが、まだ症状数が少ないものの Sp02 値は 90%を越え安定していた。今後さらに症例数を増やし慢性期の超未熟児出生の乳児の様々な状態における酸素化の評価が必要と思われる。